

ロシアのウクライナ侵攻に伴う影響

まさに悪夢としか言いようのないロシアのウクライナ侵攻から約 20 日。このロシアの蛮行に対し、西側諸国は経済制裁により、停戦を図ろうとしている。NATO 加盟国ではないウクライナを支援に軍事制裁は大義なき行為につながるための対応である。

経済制裁の中身だが、まずはロシアへの外貨送金に関し SWIFT に接続するロシアの一部主要金融機関を排除することから始まり、ロシア、ベラルーシの政府高官や関連企業、新興財閥(オルガルヒ)の資産凍結を打ち出した。これらの金融制裁は、ロシアのルーブル安を呼んでいる。年初から対 US ドルで 50% 近く下落し、侵攻以来その下落が加速化している。それに伴い物価は大幅に上昇し、市民生活は厳しくなるばかりである。

この西側諸国からの経済制裁に対し、ロシアも対抗手段を講じている。この制裁の応酬は林産事業にも飛び火し始め、この行方に関心が高まっている現実がある。

最近の最も関心の話題は、ロシアが日本を「非友好国」とみなしたこと。その対抗手段は、200 品目に及ぶ製品や原材料の 2022 年末まで輸出停止。さらに、ロシアでの事業停止や撤退する外資系企業に対する資産の差し押さえなどが挙げられる。その中で木材資材の輸出禁止にはチップ(燃料用、製紙用)や原木(原木は既に今年 1 月 1 日から輸出税 80% が課されているため今回の処置には影響はない)、単板などが含まれている。

これらの多くは西ロシアから出荷される欧州諸国向けの林産物で、これまでロシアの原材料を仕入れていた欧州各国のメーカーは打撃を受けるだろう。また、量的には少ないものの、日本にも影響は及ぶ。特に合板用、及び LVL 用のカラ松単板は、強度に優れている特性があるため、代替品を求める動きが急になっている。この禁輸は、発表されて即実施となった。

さらに物流にも問題が発生している。欧州域に接する関税当局は、ロシア向け貨物に港湾設備の使用許可を与えない措置をとる。ロシアの主要港は、西のサンクトペテルブルク、東のウラジオストクの 2 カ所のみで製品流通のコンテナ船のロシア寄港拒否は資材流通を疎外することになる。今のところ極東のウラジオストクへの寄港拒否はみえていないが、いずれ制限がかかるだろう。また今後のロシアのウクライナ侵攻がより深く進めば、黒海沿岸の他国の港へのコンテナ船の配船にも支障を来す(実際その動きはみえ始めている)。問題はことロシアだけにとどまらず、欧州のコンテナ船の配船問題にも派生することが予想され、これら物流の混乱と資材供給は、「ウッドショック」を助長するだろう。

今後ともおりにふれ、「ロシアショック」状況をお伝えしていきたい。